

ヤマユリ通信 植栽号

麻生区協働推進事業 麻生ヤマユリ植栽普及会

H21. 12. 28 発行

vol. 1-3

◆もくじ◆

- * **報告** 第5回 ヤマユリ鉢植え講習会・・・1
- * <秋の植栽活動> 区内の4地域で、ヤマユリ協働植栽・・・2
- * 南百合丘小学校の創立40周年記念 ヤマユリの球根を5年生児童と一緒に植栽！・・・2
- * 種採取研修：種の収穫の難しいヤマユリ・・・4

報告 第5回 ヤマユリ鉢植え講習会 「未知との遭遇のように感動した」

11月25日麻生区役所を会場に5回目の講習会。定員40名、今回も定員を大幅に超える応募者で、会場・資材の制約などから抽選となりました。

講習内容は、①ヤマユリの特徴と栽培の仕方、②実際の鉢植え作業、そして③その管理の仕方の3部構成。参加者からは「ヤマユリへの知識と技術について、初体験のことが多かった」と、好評のうちに会を終えることができました。

ヤマユリは、球根が休眠する11月頃に植栽するのが最適とされていることから、講習会もこの時期に設定しました。鉢植えの球根は、4月下旬頃発芽し、暑い7月初旬に開花します。

夏に咲くヤマユリを“江戸中期の俳人、有井諸九は、”百合咲くや汗もこぼさぬ身だしなみ”とその気品に満ちた優雅な姿を讃えましたが、芳しく美しいヤマユリが麻生の地から姿を消してしまうことは残念なことです。

ユリといえば、昨今、カサブランカ等が持てはやされますが、とりわけ、カサブランカの原種は、このヤマユリであることをほとんど知られていないようです。そして、神奈川県のお県花であることも。

県花指定の背景には、ヤマユリが、かつて県内の里山のあちこちに咲き乱れていたことや、日本原種のユリが明治・大正・昭和初期にかけて横浜港から欧米に向けて大量に輸出されていたことがあります。ところが、いまや反対に、ユリの球根のほとんどをオランダから輸入するに至っています。

こうした歴史的な背景について、参加者からは「そうなの？初めて知った。」と驚きの声。そして、ヤマユリの特徴について、ヤマユリの根には、上根と下根があり、上根の部分にヤマユリの子どもの木子(きご)ができるなど、その実物を示しての説明を聴いて、「未知との遭遇だ」と参加者の目が輝く。



第2部の「鉢植え実習」では「用土の種類と配合って、ああ、そうなの」「肥料はいらないの」など新情報に喜びで話が弾む。

さらに、第3部の「管理の仕方」について、梅雨時期は、鉢を雨ざらしにしないこと。夏の直射日光に当たらないように寒冷紗を掛けること。病虫害に冒されると再生できないので、早めに殺菌殺虫の配慮が必要。特にアブラムシは大敵であるなどの諸注意に「市販の草花感覚では育てられないの？デリケートなのね」と心配顔。

アンケート結果からも参加者に感動と充実感を味わっていただいたことが伺えました。

近年、宅地開発が進み緑地が少なくなっている都会地で、麻生区内にヤマユリ再生ができれば、他地域に誇れる特色ある緑地になることでしょう。しかし再生への活動の輪を広げるためには多くの課題を抱えています。一人でも多くの方が、再生保存活動に関心を寄せていただければ幸いです。



区内の4地域で、ヤマユリ協働植栽



▲エンジン草刈り機でブッシュの整地作業風景



▲“元気に育ってほしい”と声かけあって植栽作業

1) 今年こそ、これまでの失敗を生かしたい！

当会が活動しはじめて3年目の秋。今年も球根や種の植栽シーズンを迎え、11月～12月、つぎの4地域の緑地や公園で、地域ボランティアと協働して植栽作業を行いました。

①岡上地区(梨子ノ木緑地)・11月8日

②王禅寺地区(化粧面谷公園 王禅寺すぎのき緑地、下麻生まつのき緑地)・11月9日

③細山地区(授産学園緑地)・11月5日

④万福寺地区(万福寺おやしる公園)・11月22日

昨年までは、園芸用球根に倣って、漠然と冬の季節に植栽すればよいのではないかととの考えで、年明けの1月になって植栽したこともありましたが、専門家の助言により、ヤマユリの球根が休眠する10月下旬から11月下旬までに終えるように準備を進めてきました。また、植栽地の選定と整備もこれまでの経験を生かしながら、初夏より計画的に進めてきましたので、今後に期待の持てる植栽ができたと思います。

とりわけ、岡上の梨子ノ木緑地では、初夏から順次、竹や雑草のブッシュで覆われた東南斜面を150メートル以上にわたって刈り取りをすすめ、植栽地整備に汗を流しました。晩秋、11月始め、30数個の球根と種や木子の苗床もつくり植栽を済ませました。12月には区民の愛好家から球根30個ものの提供があり、3地域に10球ずつ追加植栽を行いました。“来年の夏が楽しみだね”と一同、歓声！

川崎市立南百合丘小学校の創立40周年記念 ヤマユリの球根を5年生児童と一緒に植栽！

今年11月、川崎市立南百合丘小学校の創立40周年記念にヤマユリを植栽したいとの協力の要請が区役所を通してありました。

◆まず植栽場所の選定から

これまで区内の小中学校にヤマユリを植栽してきましたが、いずれも植栽地の自然環境やその後の管理の仕方が不十分で、植栽後、2、3年で消えてしまっています。

そのため事前に先生方と場所の選定や管理の仕方についての説明会を開き、校庭の東向き斜面3か所を選定しました。ところが、その斜面には、長年、葛が伸び放題でしたので、先生方総動員による葛の根退治の草刈り作業で植栽地の準備ができました。

◆11月16日の植栽日当日

当会のメンバー6名が支援参加。植栽場所ごとに2名ずつ分担して植栽指導すること、児童が球根を植えやりやすくするために、事前に

◆行事プログラム◆

1. ヤマユリの特徴のお話
2. 植栽活動
 - ①球根を植える深さ・土のかけ方
 - ②竹の支柱を2本立て、紐で結ぶ
 - ③名札付け
3. 開花までの世話の仕方
4. 児童からの感想

穴掘りと穴の埋め戻し、支柱資材等の準備して本番に臨みました。

参加児童は、5年生全126名の予定が新型インフルエンザ感染で60数名に半減のハプニング。

ヤマユリについて、全児童、初体験で「種から開花まで5年もかかること、実物で上根と下根を確認するなど新鮮な感動体験だった」と代表児童による感想発表。

流石5年生、みな元気いっぱい穴掘りから名札付けまで30分で終了。全員大いに楽しみ来年の夏の開花に思いを馳せました。



▲ヤマユリの特徴説明を聞く児童



▲協力して球根植え・支柱立てをする児童

2) 3年間の植栽活動を振り返る “3年目、漸く先行きに明かりが…”

これまでの道のりは、とても順調とは言えず、もどかしいものでした。それは、植えるにしても開花するにしても、その成功失敗の結果が、1年先のことで地味で気の長い対応が求められるからです。

1年目は、植栽地を求めて麻生区内の緑地ボランティアを訪ねヤマユリ再生の協働活動を説得することからのスタートです。なかなか同意が得られず、いざ同意を得て植栽となり、適地を求めて緑地の中を散策するもののなかなか適地が見つからず、結果「初年度だから試しにここに植えてみよう」となることもありました。県外のヤマユリ栽培の専門家からの指導によると、生育の適地条件は、「東向き・北向き斜面で水はけが良く、立木

が少なく、日差しのある半日陰の場所。さらに地質は、肥料分の少ない山土」などでしたが、初年度からこれらの条件を満たす場所を見つけることは、困難でした。

①地質は良く、植栽時に半日陰を選定したつもりが、夏になると木の葉が茂りとても半日陰とは言えない。

②適当な木立もあり、ここならばと思って整備して植栽したが、そこは宅地造成の残土処分地であった。

③松の林の北斜面で理想的だと思ったが、土壌が浅く10cm下は関東ローム層の岩盤であった。

そんな中でも美しい大輪の花を咲かせてくれた場所は、先の適地条件に合う緑地でした。こうした活動を通じて、植栽地保全の教訓として「初夏から秋にかけての雑草の生い茂る時節には、下草刈りをせず伸びるに任せ、晩秋から冬季に刈り取る」ことを学びました。

岡上地区		3年前、平成19年に梨子ノ木緑地ボランティア「NPOかわさき自然と共生の会」のみなさんと協働してスタートしました。これまでの植栽ヤマユリは、次の年は球根の力で開花してくれましたが、その後は開花せず適地選定と管理の仕方を失敗したことに気づきました。本文の中でも紹介しましたが、改めて、適地を探索して、整地作業に取り組みました。植栽地は、東西約150メートル奥行き約20メートルの東向き斜面です。将来、開花時の散策に好適な場所になることが期待されています。
王禅寺地区		王禅寺地区では3年前より地元の「木こりの会」のみなさんと協働して活動を進めています。この地域には、4か所の植栽地があります。その1つ、「化粧面谷公園」は、毎年自生のヤマユリが開花し、楽しませてくれている緑地です。 ヤマユリの再生は、“言うは易く行は難し”で、順調とはいえません。1年目の「籠口ノ池公園」では、立木の多さと池の湿地環境のため、上手く育たず断念しました。2年目の「下麻生まつきの緑地」では、3か所に植栽。うち2か所は、地質が悪く生育が芳しくありません。 今年、新たな植栽地の「王禅寺すぎのき緑地」は、杉林の東南急斜面の緑地で管理が不十分で、カラス瓜の畑のように球根が大量出土。しかし、土壌は良好で、杉林の中で日差しの良い場所を見つけて34球を植栽しました。
万福寺地区		「万福寺おやしる公園」には、「新百合山手公園管理運営協議会」と協働して、昨年度初めて植栽しましたが、当会が、これまで植栽した緑地の中で最良の場所といえます。適地条件をすべて満たしている緑地で、今年7月見事に大輪の花を咲かせてくれました。今秋は、本格的に緑地を整備して35球植栽しました。植栽地は、小田急の車中からも眺望できる場所にあり、来夏が楽しみの場所が、ひとつ増えました。
細山地区		細山地区の「授産学園緑地」は、諸先輩が4,5年前から植栽してきましたが、クヌギが生い茂る緑地で失敗続きでした。そこで、昨年度、学園との東側境にわずかな緑地を整地し、日当たりを良くするために枝おろしを行って植栽したところ、今年、見事に開花してくれました。 今後は、日当たり良くするための枝おろし管理をすれば、自生地として再生してくれるのではないかと期待が持てます。

種採取研修：種の収穫の難しいヤマユリ



▲武蔵丘陵森林公園：小雨煙る11月下旬のヤマユリ自生地



▲朔の中に整然とぎっしり詰まった種



▲完熟朔ひと朔から収穫できる種は300～400粒



▲朔の多くが虫に食われて収穫不能

ヤマユリの球根植栽作業の時節が過ぎると種の採取の時節を迎えます。

一般的に、ヤマユリは開花すれば、雌しべと雄しべが交配によって朔（種）が成長し始め、その朔の中で300～400もの粒が種として結実します。

武蔵丘陵森林公園の自生地には、ヤマユリの群落があちこちにあり、さぞ結実した種がいくとも簡単に採取できると思い、晩秋のこと、許可をいただいて、初めて採取研修に出かけました。ところが、害虫被害で、容易には採取できなかったのです。

当園の飯塚園長から「ヤマユリは、開花すればすべて朔ができるとも限らないし、朔ができても種が結実するとも限らない」と自然の厳しさを学びました。そして「ヤマユリが自然界で交配するには、蜂や蛾などの小動物の力を借りなければならない」ことも…。私どもの植栽地では、残念ながらこれまでほとんど採取できませんでした。新たに植栽した場所には、こうした共生の動植物がほとんどいないからでしょうか。

ところが、運良く種が結実しても、さらに難関があるのです。害虫に冒されることです。朔の生育の過程で害虫が取り付き、その中の種をほとんど食い荒らしてしまいます。このような害虫が発生すると、その地域の朔は、ほとんど全滅すること…。今年の当森林公園の多くの自生地では、その被害を受けていました。

ヤマユリは、種から開花まで普通5年の歳月を要することは、これまでも紹介しましたが、そのすべての種が開花期を迎えることは不可能。種は、結実すると朔が割れて風に乗って飛散します。その種は、落ち葉や石の上、そして川や池の中などに落ち、無事、土の中で芽吹くことができるのはまれなのです。実際、その1割もないといわれています。一つの朔に数百もの種をつくるのは、多くの難関を乗り越え種を保存するためなのでしょう。

今回、その貴重な種の朔を、麻生区ヤマユリ再生のために20朔も譲っていただきました。乾燥・薬剤処理の後、順次、緑地に散布する予定です。

会員募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら里山で汗を流してみませんか。

年会費：1,200円

定例会議：原則、毎月第二木曜日午後（22年度より）

会場：会議は交流館やまゆり、ほか

植栽活動：指定の各緑地（月に1～2回）

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定 1月～3月の主な予定

1月 梨子ノ木緑地ヤマユリ植栽整備

実験農園手入れ

2月 ヤマユリ植栽地巡回視察（4か所）

今年度のまとめ・来期計画の検討

3月 鉢植え講習会（種まき編）準備

22年度会員総会準備